

# いわちゃん ポスト

岩井やすのりの県政かわら版

## 千葉県議会議員



# 岩井やすのり

プロフィール 1970 年生まれ 47 歳  
早稲田大学大学院 政治学研究科修了  
H27 年 千葉県議会議員 2 期目当選

## 岩井やすのり 議員事務所

TEL : 0476-36-7799

HP : <http://www.iwai-y.jp> メール : [mail@iwai-y.jp](mailto:mail@iwai-y.jp)

印旛郡栄町安食台 2-26-23(栄町役場前大山ビル 2F)

## 県議選区割変更が決定～印西市・栄町が合区に

千葉県議会で議論されてきた一票の格差と議員定数の問題について、2 月県議会にて、県議選の選挙区割りを変更し、定数を 1 減らす条例改正案が可決されました。平成 31 年実施の統一地方選から適用となります。

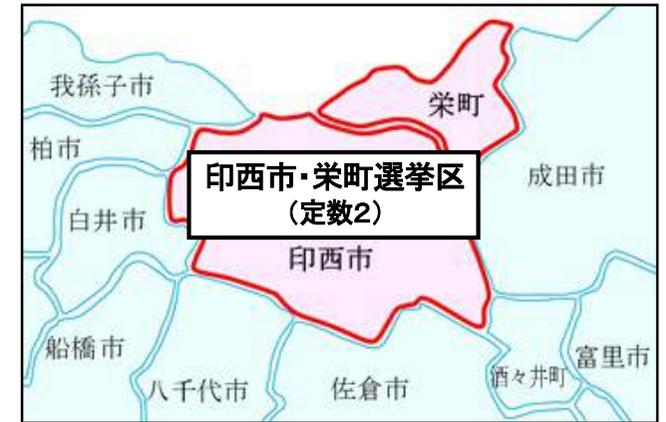
### 銚子市 6 千人減で、区割変更まったなしに

千葉県議会議員選挙における一票の格差の問題では、平成 27 年に実施された統一地方選挙において、人口 7 万 210 人の銚子市選挙区（定数 2）の県議 1 人あたり人口が 3 万 5105 人であった一方、印西市選挙区の同 1 人あたり人口が 8 万 8176 人（H17 年国勢調査値）と、両選挙区の一票の格差が 2.51 倍に上っていたもの。さらに、10 年ぶりに実施された平成 27 年の国勢調査値では、銚子市人口が約 6 千人減少する一方で、印西市人口は 6 千人余り増加し、一票の格差は 2.88 倍へと拡大し、問題視されていました。

また、人口の多い選挙区の定数が人口の少ない選挙区の定数より少ない逆転区（逆転現象）は、銚子市（定数 2）と印西市（定数 1）、銚子市（同 2）と八街市（同 1）等の他、佐倉市（同 3）と流山市（同 2）、銚子市と旭市（同 1）、君津市（同 2）と印西市（同 1）など計 8 通りへと拡大。選挙制度改革はまったなしの状態となっていたものです。

### 県議選区割等の変更点（H31年統一地方選より）

- ・旧香取郡選挙区を廃止し、東庄町を銚子市選挙区（定数 2）に、神崎町・多古町は香取市選挙区に吸収（同 2）
- ・印西市と栄町の選挙区を合区（定数 2）
- ・佐倉市と酒々井町の選挙区を合区（同 3）
- ・山武市と山武郡の選挙区を合区（同 2）
- ・鴨川市と南房総市・安房郡の選挙区を合区（同 2）



### 定数 1 減、飛び地・逆転選挙区が解消に

可決された条例改正案では、△旧香取郡選挙区（定数 1）を廃止し、東庄町を銚子市選挙区（同 2）に、△神崎町と多古町が香取選挙区（同 2）に吸収されることになるほか、△印旛郡選挙区（栄町、酒々井町）が解体され、栄町は印西市選挙区と合区（同 2）、酒々井町は佐倉市選挙区と合区（同 3）、△山武市と山武郡選挙区が合区（同 2）、△鴨川市と南房総市・安房郡選挙区が合区（同 2）と、計 10 選挙区にわたるもの。定数が 1 減の 94、選挙区数は 4 減の 42 となり、課題となっていた飛び地や逆転選挙区が解消され、選挙区間の一票の格差は 2.44 倍に是正されることになります。

### 地域の声に耳を傾け、住民に寄り添う政治を

印西市と栄町の選挙区が合区ということになり、地元選出県議としての活動範囲が広がっています。弊いわちゃんポストが浸透しつつあるのか、栄町はもちろん千葉 NT 地区でも疑問や要望の声が多く寄せられるようになってきました。地域の声にしっかりと耳を傾け、住民に寄り添う政治の実現を目指してまいります。

# 印西市が突然の離脱～2市1町消防広域化ご破算に

印西市、栄町、白井市の2市1町で話し合われてきた印西地区消防と栄町消防による消防広域化。地域間の連携を深め、消防力強化を図るというものでしたが、印西市の突然の離脱によりご破算となった格好です。

## 消防車6台で食い止められず～糸魚川火災

140棟もの家屋が延焼した、昨年暮れの糸魚川市火災は未だ記憶に新しいところですが、その火災の大規模化の一因として指摘されたのが、消防力の不足です。この火災では、糸魚川消防本部が所有する6台全ての消防自動車が投入されたものの、消火活動は困難を極めました。火災発生から1時間半が経過した同日正午ごろに。近隣の上越市や新潟市などの消防本部に応援を要請。最終的には富山県などあわせて約1000人の消防隊員が消火にあたり、出火から10時間あまり経った午後9時前にようやく消し止められたのです。



都市部の強力な消防力を持つ消防本部では、初動で10台以上の消防自動車が駆けつけるのも珍しくない中、消防自動車6台という地元消防本部の消防力の不足が、火災の大規模化を招いてしまったと言えます。

## 印西市長ら関係者がそろって委員を辞任

各消防本部の消防力不足については、国や自治体も手をこまねいてきたわけではありません。国は、車両や施設の整備に関わる助成制度を設ける等して、消防本部同士の統合を推し進めており、昨年4月までに全国48の地域で消防広域化が実現しています。

北総3自治体においても、消防自動車は、印西地区

## 2市1町の消防広域化に関わるこれまでの経緯

平成28年7月 広域化連絡会発足

8月 第1回協議会 印西・白井両市が財政的メリット求める

11月 第2回協議会 態度決定時期を29年3月とした

消防庁に要望 広域化に伴う施設整備等の支援を要望

平成29年1月 第3回協議会 両市に財政負担リスクがない事務委託方式に決定

2月 第4回協議会 広域化の検討に関する「まとめ」に合意

3月 第5回協議会 正式決定が予定されていたが、印西市が離脱

消防組合で計8台（印西市6台、白井市2台）、栄町消防本部で2台の配置にとどまるなど、大規模災害時等の消防力不足が懸念される中、昨夏には2市1町による協議会が設けられ、広域化に向けた話し合いが進められてきました。本年1月には「事務委託方式」との広域化方針が決定し、いよいよ正式決定という3/13の協議会の席上で一転、印西市長ら市関係者が揃って委員を辞任。印西市の離脱により広域化協議は不成立となってしまったのです。

協議最終盤での突然の離脱に、栄町長や白井市長等から落胆や当惑の声が上がるのも無理はありません。

## 離脱せず市議会に問うべきでなかったか

関係者いわく、「財政的なメリットがない」「市議会の理解が得られない」というのが、印西市離脱の理由とのこと。ただ、消防広域化を実施するためには、そもそも協議成立後に関係各議会での承認が必要だったわけで、離脱せずに印西市議会にて賛否を問うべきだったとの声が聞かれます。

消防力強化は、地方都市が抱える共通の課題。消防広域化が不成立となった中、住民の生命と財産を守るため、新たな方策が求められることとなります。

## 消防広域化とは

